

認定心理士アンケート調査 報告書

2015年3月

I. 調査の概要

1. 目的

認定心理士の皆様のご意見，ご要望，現状を把握することで，日本心理学会の活動を強化し，認定心理士制度のより一層の充実とサービスの向上を図るための方策の推進の資とする。

2. 対象

認定心理士資格所有者

3. 調査の方法・回収数

アンケート用紙を郵送によって発送し，返信用封筒にて回答を回収した。

対象者数：36507人（2015年1月時点で郵送が可能な心理士資格所有者全員）

回収数：7709通（回収率21.1%）

4. 調査期間

2015年2月1日～2月20日（最終締め切りは3月10日 約5週間）

5. 調査項目数

以下の領域から構成し，全18項目であった。

- （1）認定心理士取得時の大学等
- （2）就業の有無・職種
- （3）仕事と心理学の関係
- （4）認定心理士資格の取得時期
- （5）認定心理士資格取得申請の方法・動機
- （6）認定心理士を知った経緯，すすめの有無，申請の方法
- （7）認定心理士のメリット，認定心理士会に望むサービス
- （8）所属学会
- （9）新設する「認定心理士部会」「認定心理調査士」への興味

Ⅱ. 調査の結果

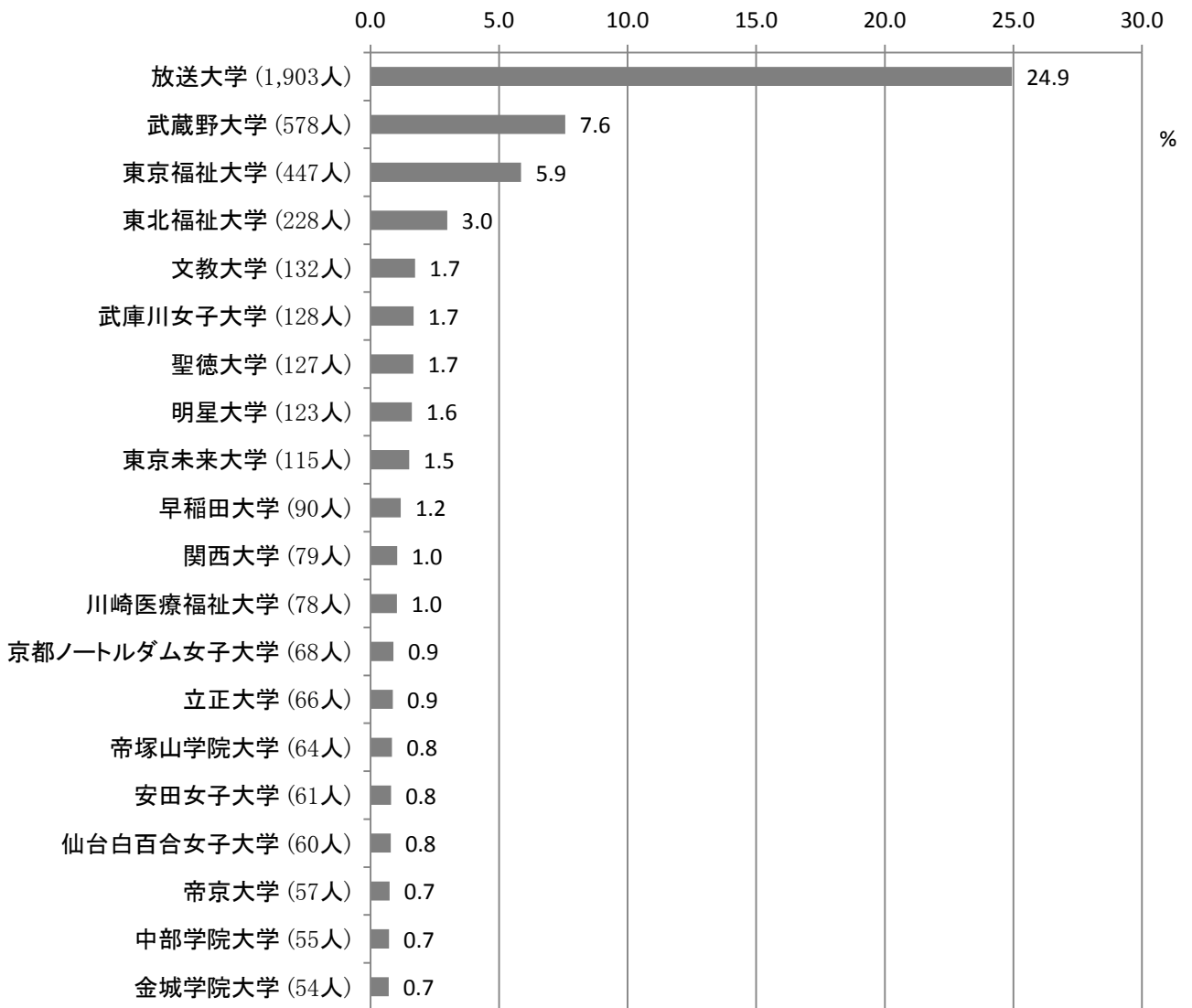
1. 認定心理士資格取得時の大学等

認定心理士資格取得時の大学等は、全337校であった。1校あたり平均23人・標準偏差112であった。

人数の上位20校をまとめたものが下図である。

もっとも多いものは、放送大学の1,903人で24.9%と全体の1/4を占めた。

問1 あなたの認定心理士資格取得の際の大学を教えてください。



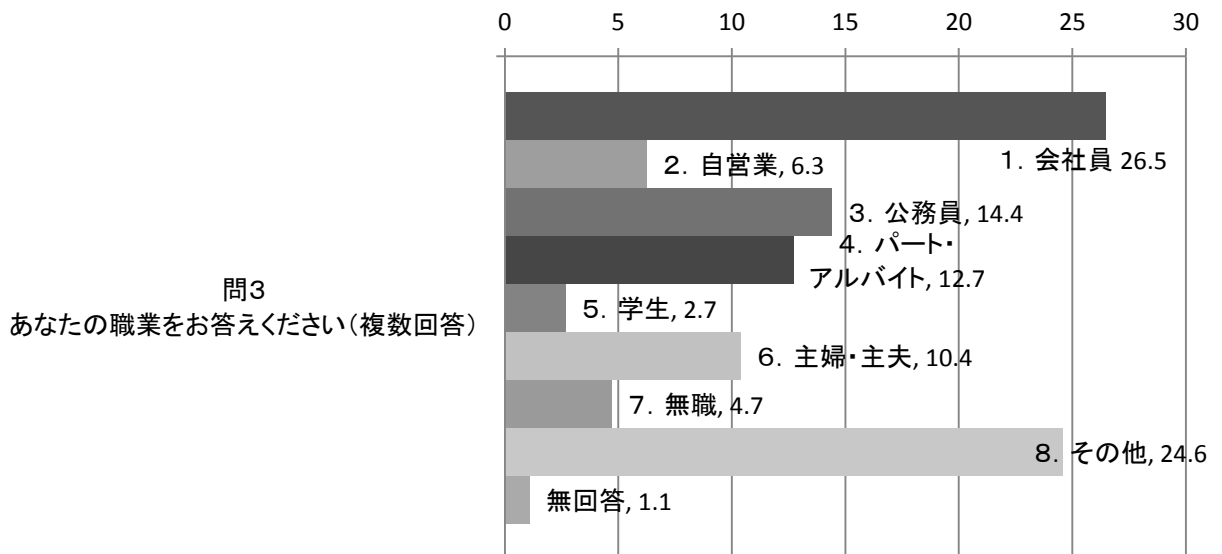
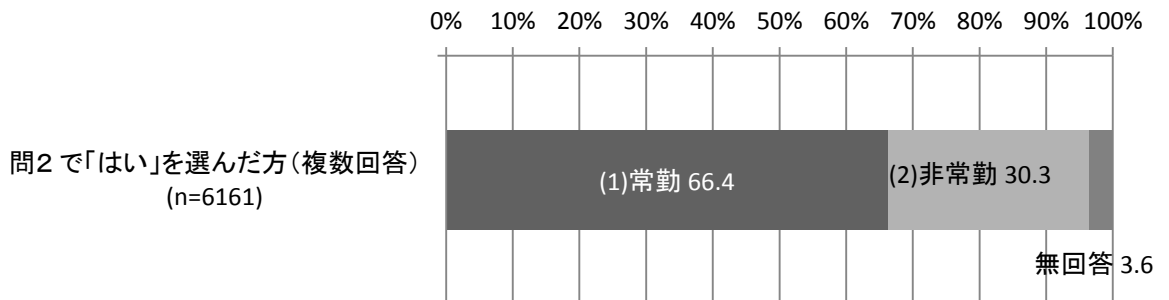
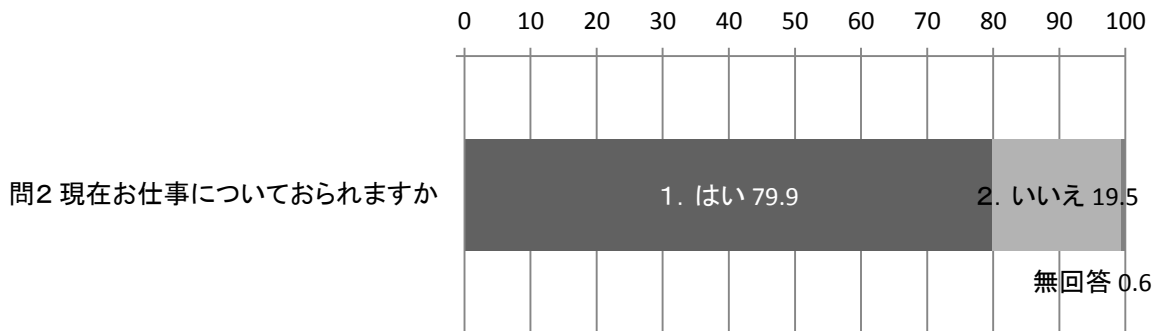
2. 就業の有無・職業

現在の就業の有無・職業をまとめたものが下図である（数値は%）。

仕事についている人は約8割であり、そのうち7割弱が常勤である。

職業としてもっとも多いものは、会社員とその他であり、それぞれ約1／4ずつを占める。

その他には、教員・団体職員が多く含まれる。



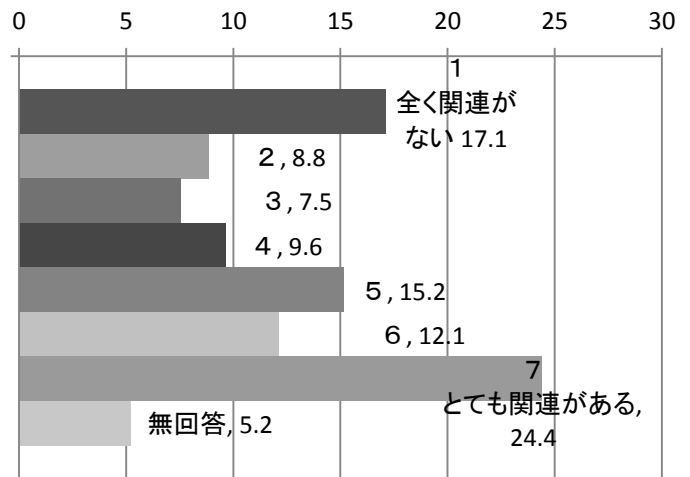
3. 仕事と心理学との関連

仕事と心理学との関係等についてまとめたものが下図である。

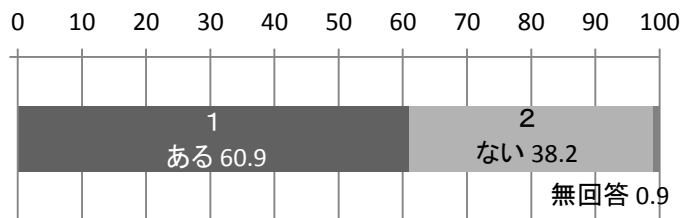
仕事と心理学の関連については、「7. とても関連がある」が24.4%と最頻で、ついで「1. まったく関連がない」の17.1%であった。関連がある人となない人が多く、中程度に関連している人が少ない。

心理学を活かした仕事をしたことがある人は6割で、職種は多岐にわたる。

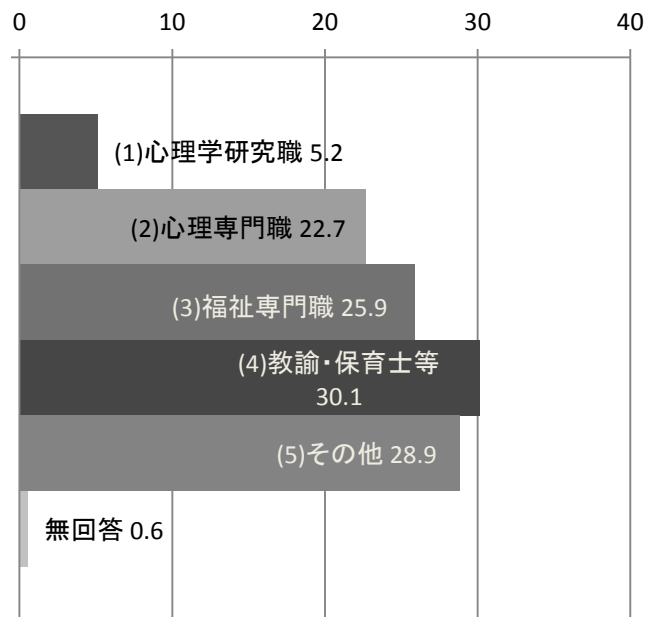
問4
現在のお仕事は心理学とどの程度関連がありますか
(平均4.38 SD2.22)



問5
あなたは今までに心理学をいかした仕事をされていたことがありますか



問5で「ある」を選んだ方(複数回答)(n=4698)



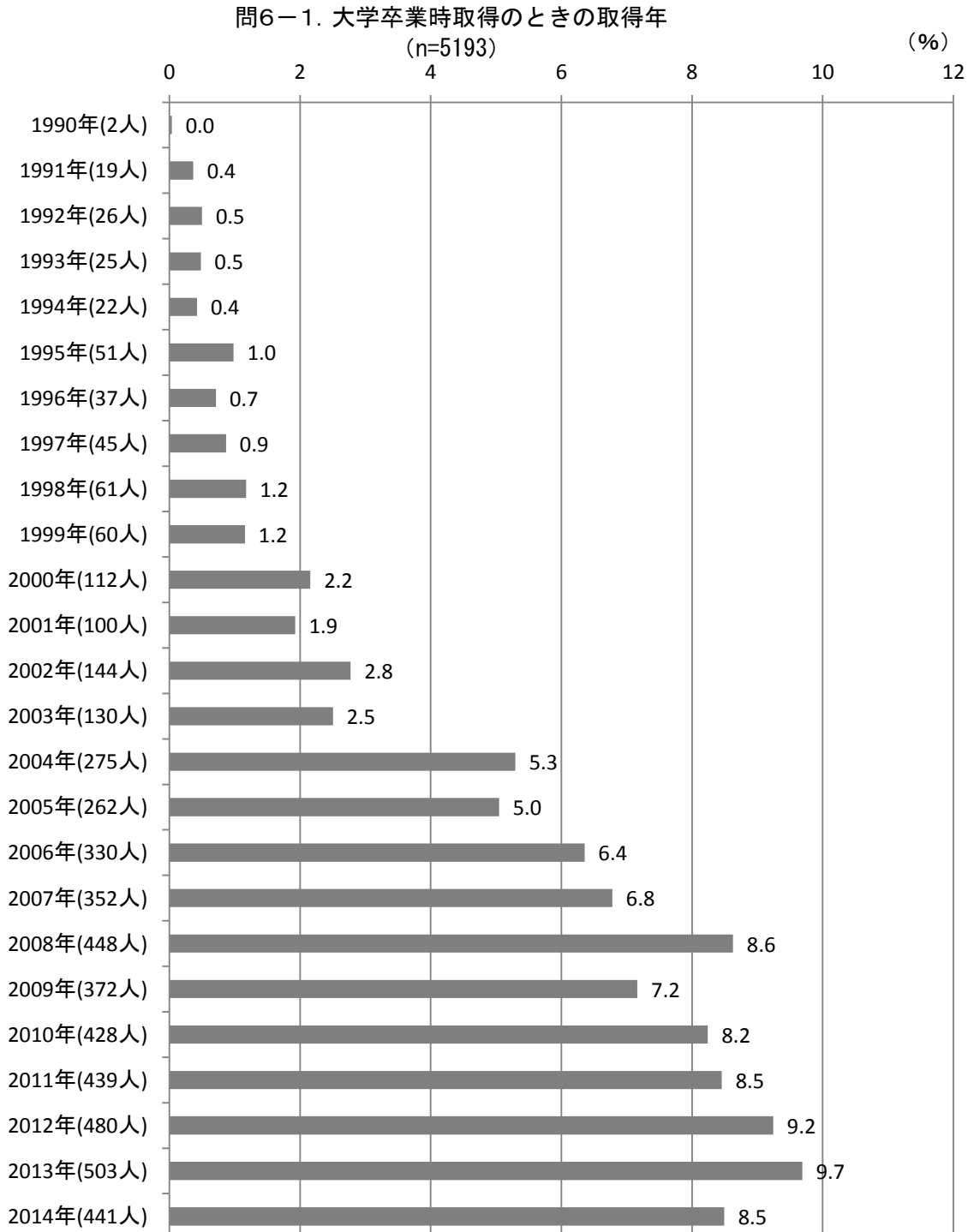
4. 認定心理士資格の取得時期

(1) 大学卒業時取得

大学卒業時に取得した人は5193人（67.3%）であった。

取得年をまとめたものが下図である。

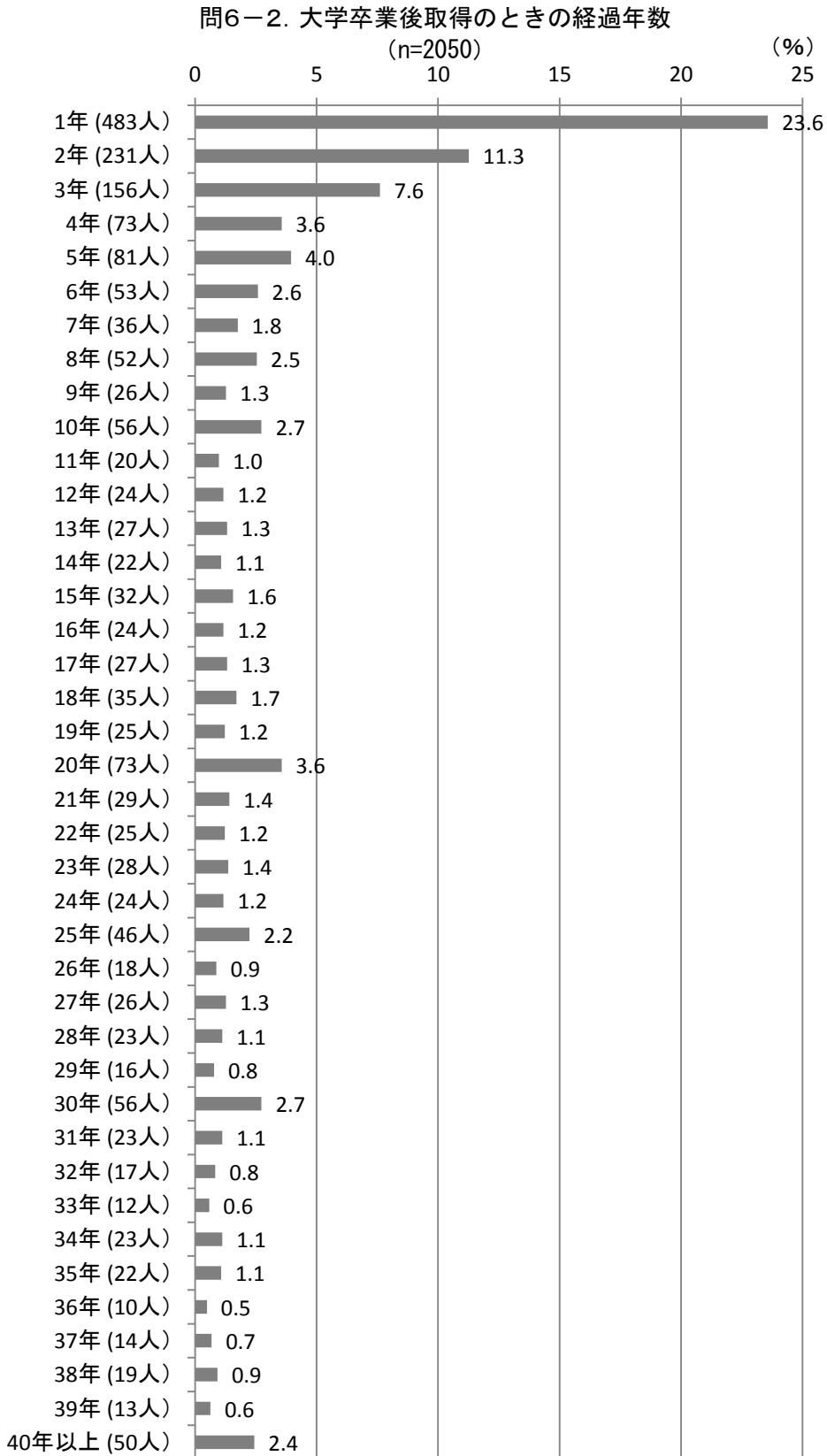
2004年に取得者数が急激に増え、以降毎年増加する傾向にある。



(2) - 1 大学卒業後取得年

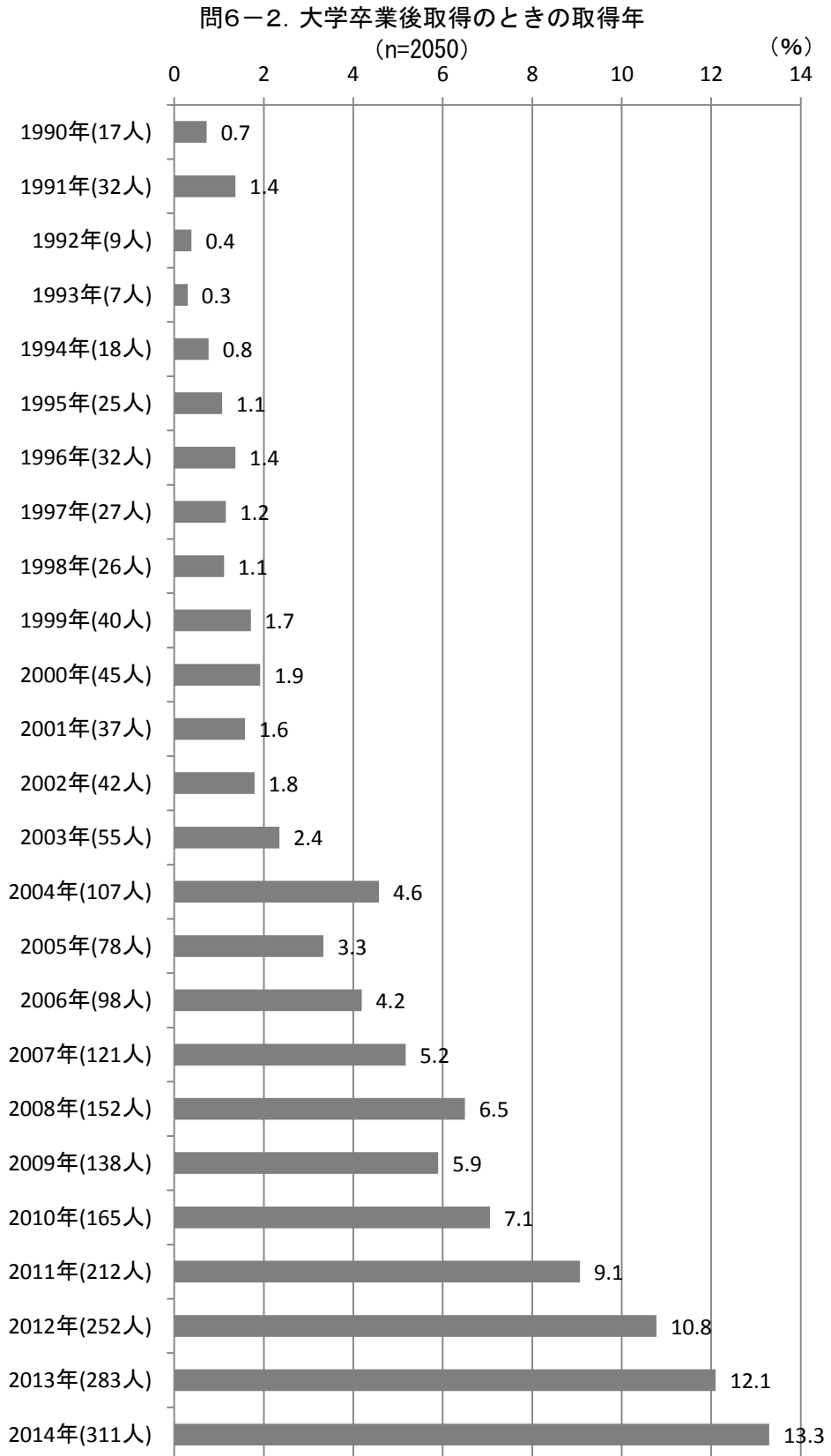
大学卒業後に取得した人は2050人(26.6%)であった。経過年数をまとめたものが下図である。平均経過年数は11.7年、標準偏差は12.2であった。

卒業後1～3年間で取得する人は42.5%を占める。



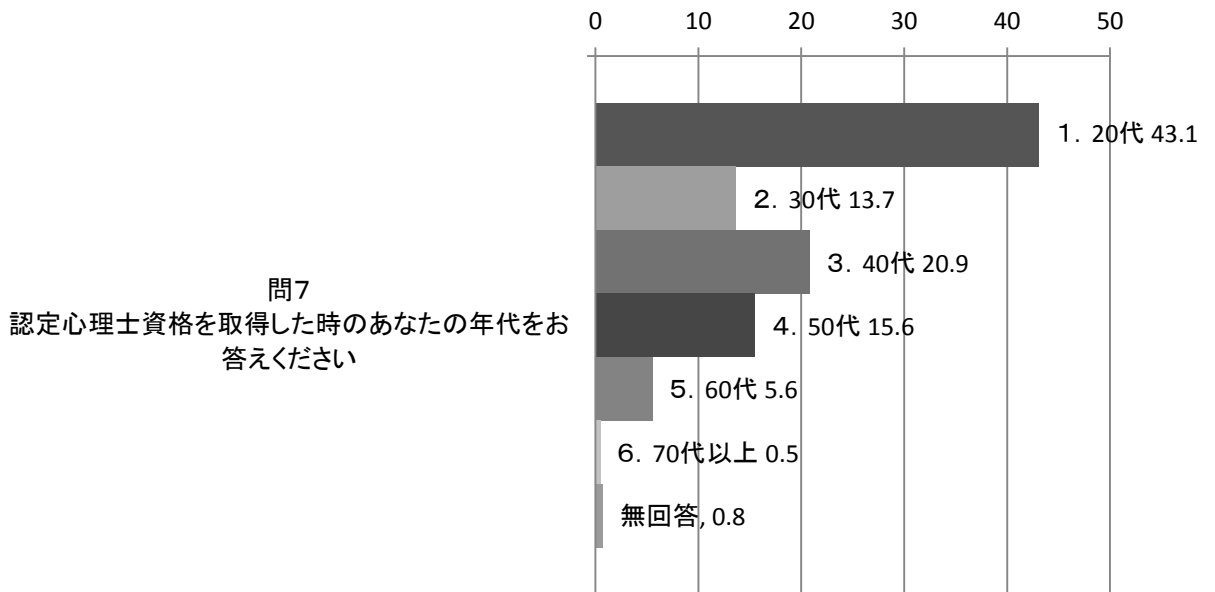
(2) - 2 大学卒業後取得経過年数

大学卒業後の取得年をまとめたものが下図である。最頻値は2014年の285人（13.3%）であった。近年になるほど、大学卒業後の取得者が増加する傾向にある。



(3) 認定心理士資格取得時の年代

認定心理士資格取得時の年代（年齢）をまとめたものが下図である。最頻値は20代であり，全体の43.1%を占めた。

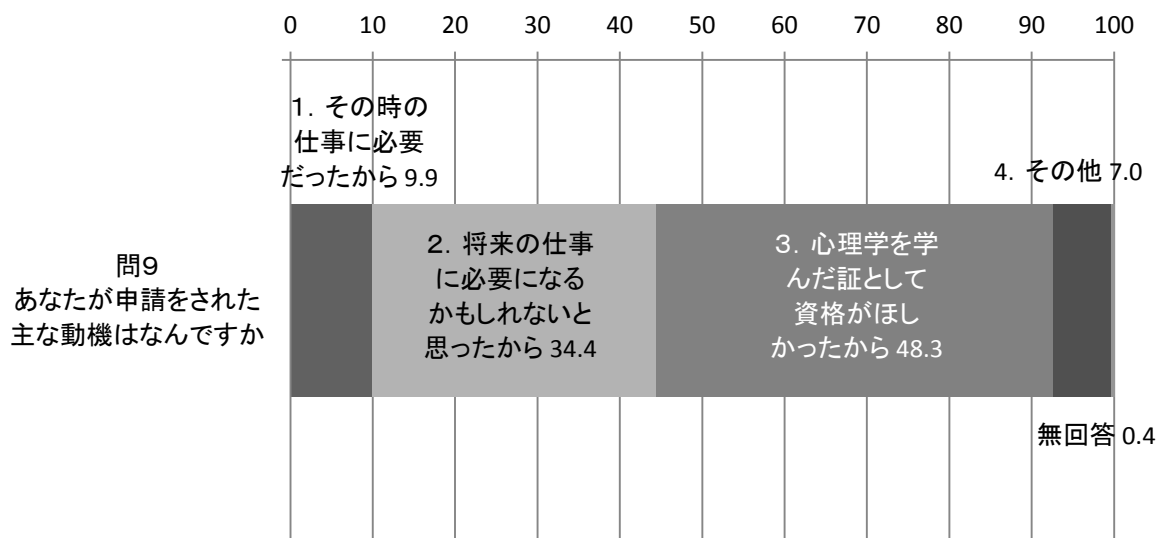
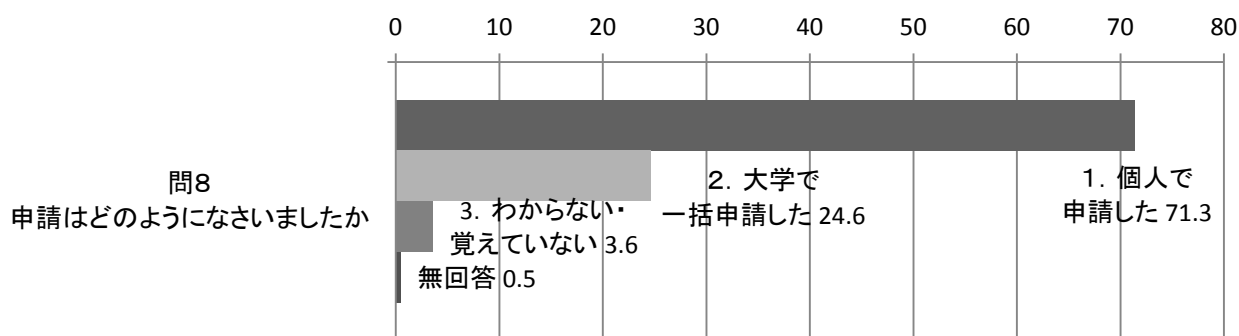


5. 認定心理士資格取得申請の方法・動機

認定心理士資格取得の方法・動機をまとめたものが下図である。

申請方法は個人での申請が71.3%を占め、ついで大学での一括申請が24.5%である。

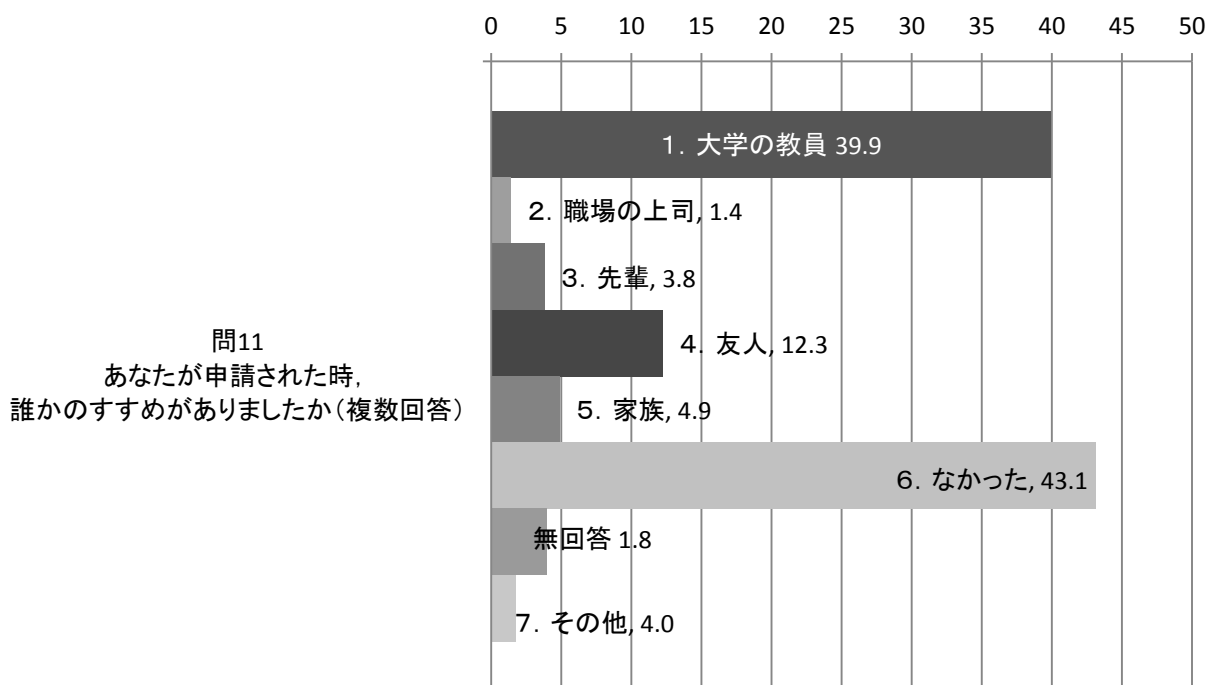
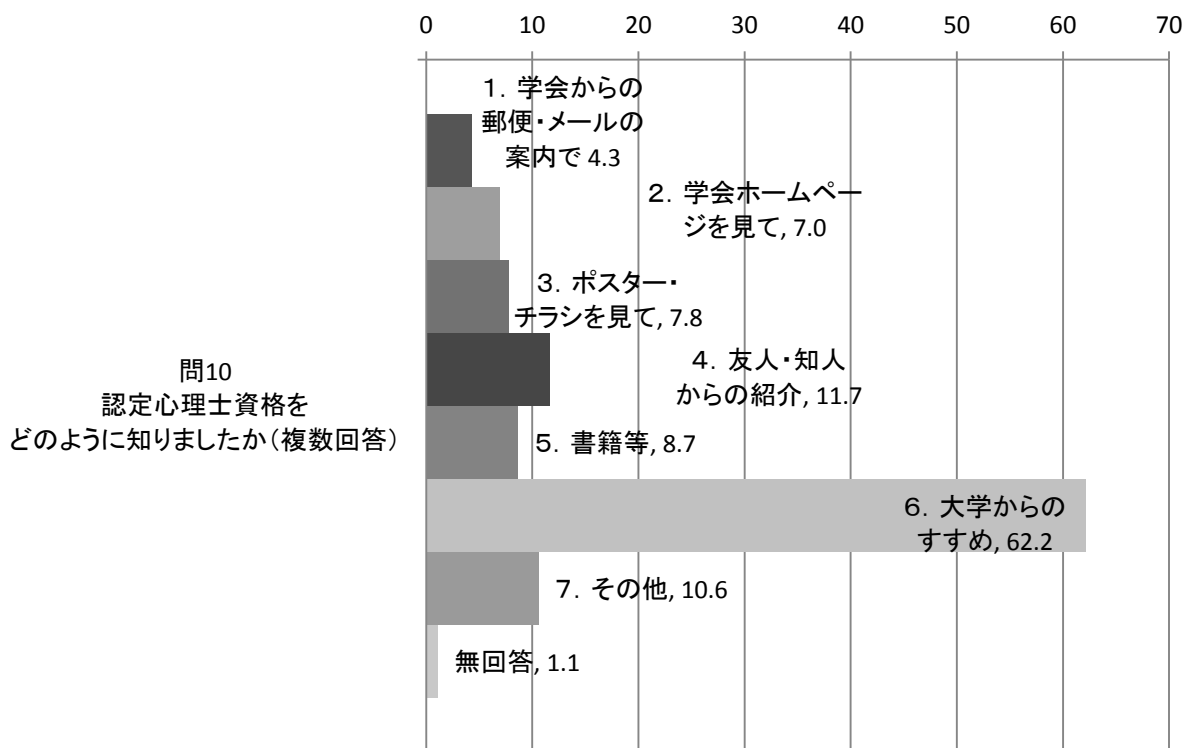
申請動機は、「心理学を学んだ証として資格がほしかったから」が48.3%と半分を占め、ついで「将来の仕事に必要なかもしれないとおもったから」が34.4%である。なお、「そのときの仕事に必要なだったから」は1割程度である。



6. 認定心理士資格を知った経緯・すすめの有無申請の方法・動機

知った経緯では「大学からのすすめ」が最頻で62.2%を占める。学会からの各種の案内については1割未満である。

資格取得のすすめは、「なかった」が43.1%，大学の教員が39.9%であった。

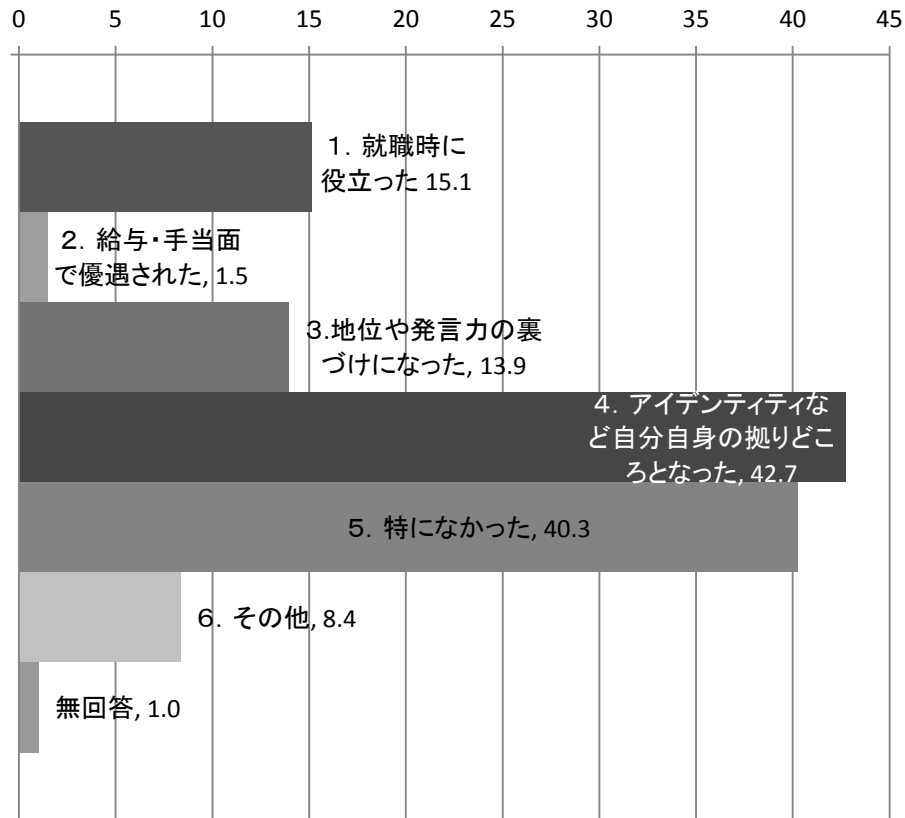


7. 認定心理士資格のメリット、認定心理士会に望むサービス

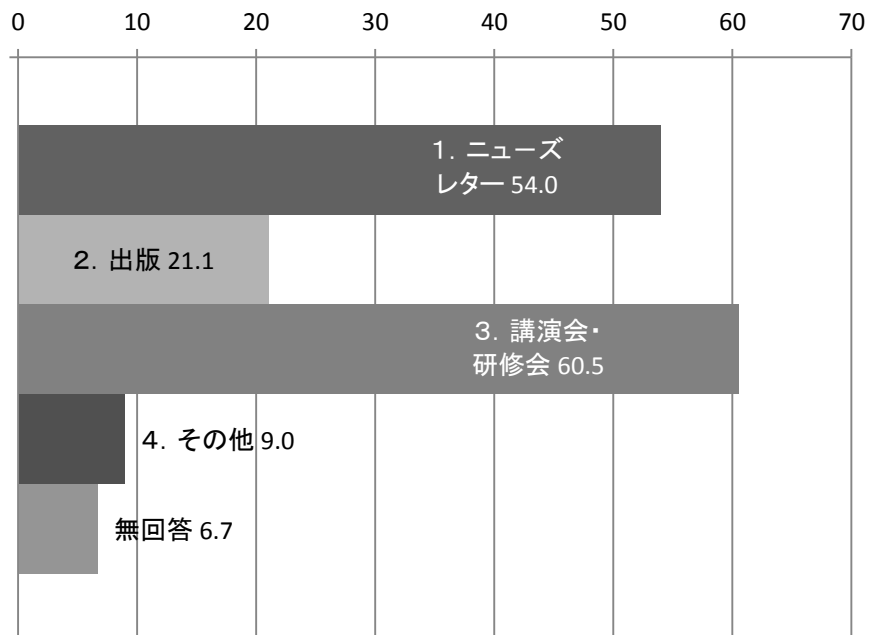
メリットとしては、「アイデンティティなど自分自身の拠りどころとなった」が42.7%、「特になかった」が40.3%と多くを占めた。「就職時に役立った」は15.1%であった。

認定心理士会に望むサービスは、「講演会・研修会」が60.5%、「ニュースレター」が54.0%であった。

問12
認定心理士の資格をもっていることで
これまでに何かメリットがありましたか
(複数回答)



問13
認定心理士に日本心理学会が
提供するサービスとして
どのようなものを望みますか(複数回答)

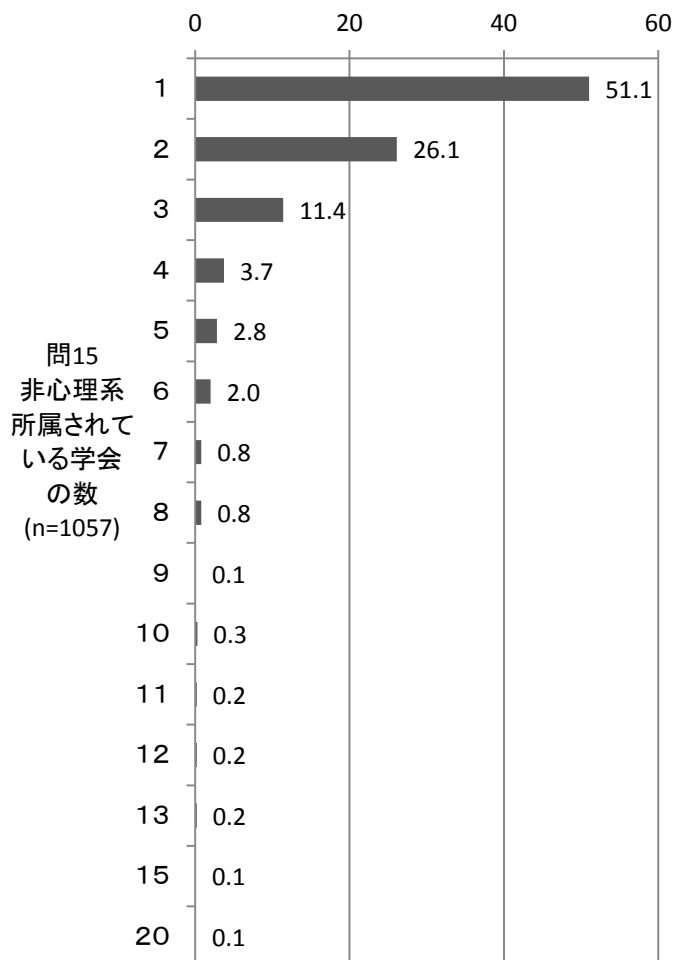
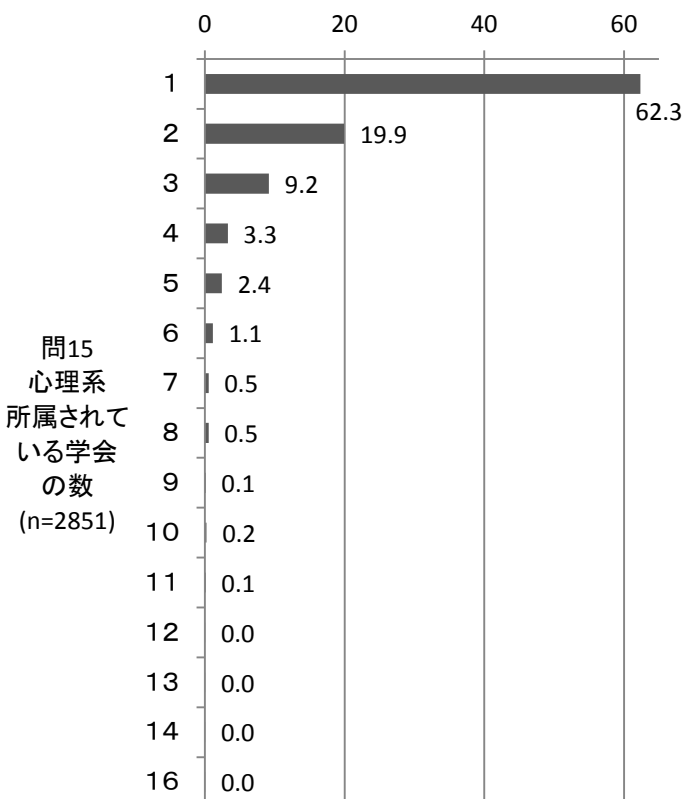
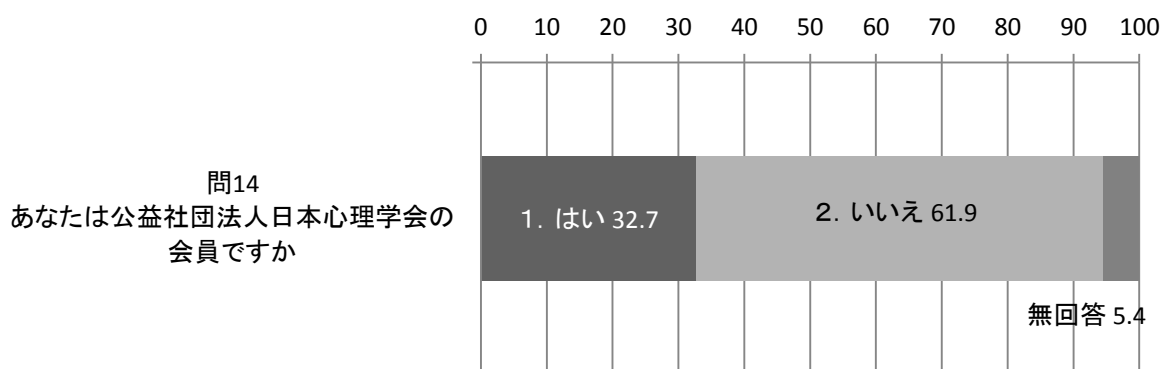


8. 所属学会

公益社団法人日本心理学会の会員は32.7%である。

所属している学会については、心理系の学会に所属していると回答した人は2851人※，所属数は1つが最頻で所属していると回答した人の62.3%を占める。非心理系の学会に所属していると回答した人は1057人で，所属数は1つが最頻で所属していると回答した人の62.3%を占める。

※実際には，認定心理士の中で日本心理学会に入会されている方は1255名であるので，誤って回答していると思われる。



9. 新設する「認定心理士部会」「認定心理調査士」への興味

「認定心理士部会」への興味について「はい」が71.8%、「いいえ」が24.9%である。

「認定心理調査士」への興味について「はい」が78.0%、「いいえ」が18.8%である。

